

政策評価シート（平成30年度実績評価）

◎ 政策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	2-2	政策名	生活基盤の充実	政策の 目指す姿	生活に必要な基盤が整い、快適に暮らしています	政策 主管課	都市政策課	政策主管 課長名	佐々木 賢二
	政策の方針	市民が快適な生活を送るためには、道路や住宅、水道など生活に必要な基盤が整備されていることが必要です。そのために、安全で利便性の高い道路の整備をはじめ、利用しやすい公共交通の確保、安心して生活できる住宅の確保、地域の特色を活かした景観の形成、安全でおいしい水の安定的な供給、汚水の適切な処理、さらには、快適な情報通信環境の整備促進に取り組みます。								

2 成果指標の達成状況

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	区分	H27 (基準年度)	H29	H30	R1	R5
生活基盤に満足している市民の割合	普段の生活の中で利用する道路や上下水道、公共バス、情報通信環境などの基盤整備状況の市民満足度を示す指標	市民アンケート測定「普段の生活の中で利用する下記項目の基盤整備状況に満足していますか？」①道路、②上水道、③下水道、④公共バス、⑤情報通信環境(1)満足、(2)どちらかといえば満足、(3)どちらかといえば不満、(4)不満、(5)分からない、(1)(2)選択数をカウントし、各項目別の満足度を測定したうえで、各項目の平均値を算出し、全体の市民の満足度とする。※分からない、無回答は分母から除いて計算	%	目標値		71.1	71.5	71.9	73.9
				実績値	55.9	70.8	72.7	-	
達成度	[達成状況に関する背景・要因]								
A	実績値は1.9%向上し、目標値を上回っている。要因としては、道路、上下水道の整備状況について満足度が安定して高いこと、公共交通については満足度はほぼ横ばいであるが、クロス集計の結果から日常生活の中で「公共交通を利用できる」(又は「どちらかという利用できる」)市民が年齢層や地域にかかわらず比較的多いこと、また情報通信環境については事業者の通信サービスの向上などにより利用者にとっての満足度が高くなっているものと推察される。								

3 政策に対する各施策の達成度

No.	施策名	成果指標名	H27 (基準年度)	H29			H30			R1		前年実績との比較	達成度
			現状値	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	見込み		
1	道路環境の充実	市道の改良率(%)	55.9	56.3	56.1	b	56.5	56.2	b	56.7		→	B
		市道の舗装率(%)	52.0	52.4	52.2	b	52.6	52.5	b	52.8		→	
		歩道の整備延長(m)	178,611	182,011	180,247	b	184,211	180,930	b	186,411		→	
2	公共交通の確保	公共バス(市運営、民間運営)の利便性に満足している市民の割合(%)	43.0	43.0	44.7	a	43.0	42.7	b	43.0		↘	B
		花巻空港年間利用者数(%)	39.9	42.3	44.1	a	43.1	48.2	a	43.1		→	
3	住宅の安定確保	市営住宅大規模改修計画に対する進捗率(%)	47.6	73.0	73.0	a	79.4	73.0	b	84.1		↘	B
		住宅の耐震化(%)	67.1	69.0	71.0	a	70.1	72.7	a	71.2		→	
4	景観形成の推進	地域の景観に愛着を持っている市民の割合(%)	70.1	70.0	72.0	a	70.0	70.9	a	70.0		→	
5	安全な水の安定的供給	浄水施設等設置率	46.7	55.0	50.0	b	48.0	49.0	a	59.0	59.0	→	B
6	汚水の適切な管理	汚水処理人口普及率(%)	88.7	90.1	89.8	b	90.8	90.2	b	91.5		→	B
		水洗化率(%)	77.0	79.5	79.1	b	80.9	79.9	b	82.3		→	
7	情報通信環境の充実	光通信エリア普及率(%)	96.0	96.4	95.3	b	96.9	95.4	b	97.4		→	B

4 政策の総合的な評価

評価区分	政策の課題と要因
A-②	総合的に見て順調である。道路や上下水道など基本的な生活インフラについては、計画的な事業推進により概ね目標どおり進み市民の満足度は高い。公共交通については、全体的な利用者の増加にまでは至らないものの市街地循環バス拡張や支線路線バス廃止地区への予約乗合バスの導入等により利用者の確保に今後とも取り組む必要がある。
順調	

成果指標達成度	A			☆	
	B				
	C				
	D				
		④	③	②	①
		政策に対する施策の達成度			

5 政策を構成する施策一覧

施策名	道路環境の充実	施策の成果指標の達成状況	H29	B	H30	B
1	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストック総点検（橋梁、舗装、道路付属物、法面・土構造物）に伴う点検経費、点検に伴う修繕経費が増高し、道路法に基づく5年に1回の定期点検（橋梁、トンネル）の点検経費や修繕経費も加わるため、将来を見据えた計画的に効率の良い修繕と財源の確保が必要である。 ・国道4号山の神・村崎野間はボトルネックとなっていて、慢性的な渋滞がおきており、救急搬送や通院、工業・流通団地への通勤や流通に支障をきたしており、また、北上工業団地周辺では企業立地も活発化していることから、国道4号の渋滞は、今後、さらに深刻化することが予想されることから、早期に花巻東バイパスを含め4車線化にする必要がある。 <p>[今後の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等総合管理計画及びストック総点検に基づく長寿命化修繕計画により効率的な修繕の検討とその財源確保を図る。 ・国道4号の山の神地区交差点改良の早期完成と花巻・北上市境における2車線区間の4車線拡幅整備の早期事業化について、「国道4号岩手県南地域拡幅整備促進期成同盟会」や岩手県、北上市と連携し国に強く働きかける。 					
2	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花巻空港年間利用者は、冬季利用率の低下の課題があることから、利用者の季節変動を少なくする必要がある。 ・民間路線バスの利用者は増加しておらず、路線の維持のためにも更なる利用促進策を講じる必要がある。 <p>[今後の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県及び岩手県空港利用促進協議会などと連携し、県内及び国内外就航都市での利用促進PRの強化、空路を利用した旅行商品の造成につながる働きかけを行う。 ・各総合支所と連携しながら幹線路線バスや予約応答型乗合交通の利用促進の取組みを継続して行うとともに、花巻市地域公共交通網形成計画に基づき計画的に対応策を実施し地元へのPRを積極的に行う。 					
3	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木造住宅の耐震診断を実施しても補強工事を実施しないケースが多くなっていることから、粘り強い継続的な周知が必要である。 <p>[今後の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木造住宅耐震診断で補強工事の必要な所有者に対し、耐震改修を促進するため木造住宅耐震相談支援事業の紹介や耐震改修のリーフレットを配布する。 					
4	<p>[課題]</p> <p>—</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>—</p>					
5	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道未普及地域の住民に対する安全な水の安定的な供給のため、浄水施設等の設置に対して補助金制度の利用を推進しているが、制度を利用する場合でも自己負担が1割生じるほか、対象経費外については全額自己負担、設置以降の施設のメンテナンスなど維持費がかかることとなり、利用希望をしても各家庭の事情や生活条件などの要因により浄水施設等の設置が伸び悩んでいるが、水道未普及地域の住民に対する安全な水の安定的な供給のために必要な事業であることから、引き続き制度の周知に努める必要がある。 <p>[今後の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金制度を利用した浄水施設等の導入に関する意向状況の変化を把握するため、平成29年度にアンケートにより再調査したところであり、この結果をもとに、まだ浄水施設等を導入していない利用希望世帯への聞き取り確認や個別訪問等により、制度のPRと浄水施設等の導入推進に努める。（希望世帯等：60世帯⇒96世帯（H29調査時）） 					

施策名	汚水の適正な管理	施策の成果指標の達成状況	H29	B	H30	A
6	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水洗化促進のための支援制度の周知を図り、水洗化率の早期向上に努める必要がある。 ・持続可能な事業運営を行うため、維持管理費の削減に努める必要がある。 ・汚水処理施設(集合処理施設)の老朽化が年々進んでいるため、長寿命化対策を進め効率的な管理運営を進める必要がある。 ・浄化槽事業の整備促進のための補助制度の周知を図り、普及率の早期向上に努める必要がある。 <p>[今後の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水洗化促進のため、支援制度の周知を図り、より効果的に進める。 ・維持管理費の削減のため、施設の統廃合などの広域化を進める。 ・汚水処理施設の効率的で効果的な運営を図るため、老朽化施設の長寿命化対策工事や調査計画の策定を進める。 ・浄化槽事業の整備促進のため、補助制度の周知を図り、より効果的に進める。 					
施策名	情報通信環境の充実	施策の成果指標の達成状況	H29	B	H30	B
7	<p>[課題]</p> <p>・市が未整備地区の光ファイバを整備することは、国の補助制度を利用するとしても後年度の維持管理費等の負担が懸念され困難な状況にある中、国は今後の光ファイバの整備について、地理的条件が不利な地域において民間事業者が行う整備に対する補助を行うこととする方針が示された。R元年度には、5G等の高度無線環境の実現に向けた伝送路等の整備に向けた事業者への補助制度が開始されたため、事業者に今後の対応について確認を行っているが、補助制度が始まったばかりということもあり、まだ整備に対する考え方は示されていない。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>・未整備地区のインターネット接続環境を支援するため、Wi-Fiルーター導入に対する補助制度を継続するとともに、引き続き、光ファイバ整備や5G整備に関する国の動向や事業者の未整備地域への整備方針等について情報収集を行う。</p>					